

「小児救急電話相談事業(#8000)」についてのアンケート結果

滋賀県では、夜間や休日における子どもの急変時に保護者からの相談を受ける「小児救急電話相談事業(#8000)」を実施しています。

この事業の認知度や利用状況の把握を目的として、アンケートを実施しました。

★調査時期:令和8年2月

★対象者:県政モニター299人

★回答数:244人(回答率81.6%)

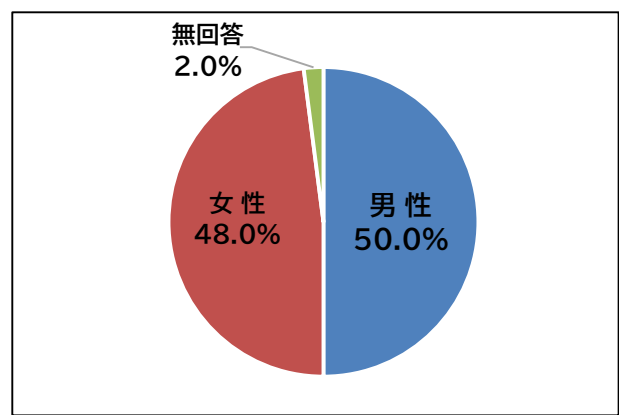
★担当課:健康医療福祉部 医療政策課

※四捨五入により割合の合計が、100%にならない場合があります。

【属性】

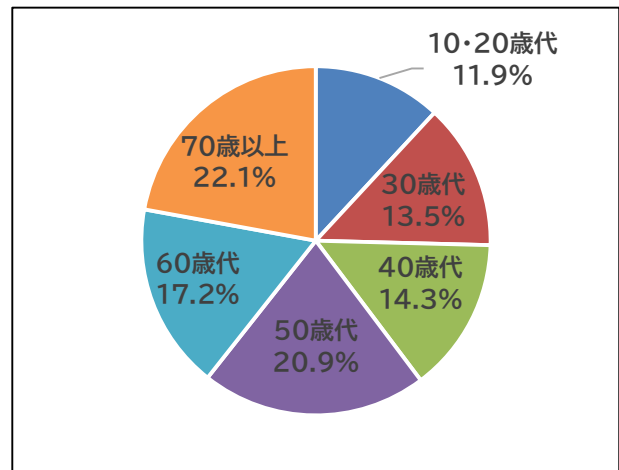
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	122	50.0
女性	117	48.0
無回答	5	2.0
合計	244	100.0



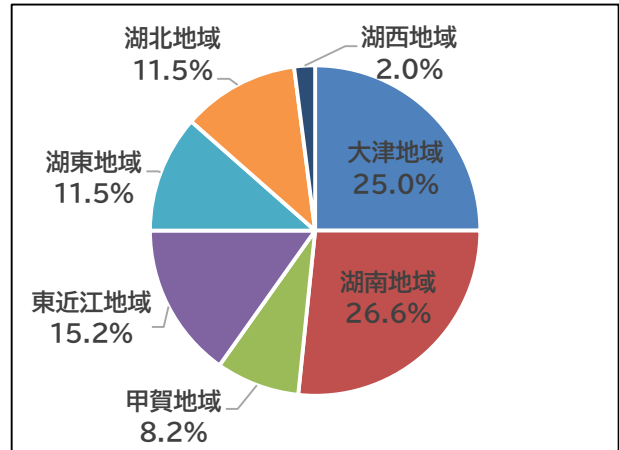
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	29	11.9
30歳代	33	13.5
40歳代	35	14.3
50歳代	51	20.9
60歳代	42	17.2
70歳以上	54	22.1
合計	244	100.0



◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	61	25.0
湖南地域	65	26.6
甲賀地域	20	8.2
東近江地域	37	15.2
湖東地域	28	11.5
湖北地域	28	11.5
湖西地域	5	2.0
合計	244	100.0

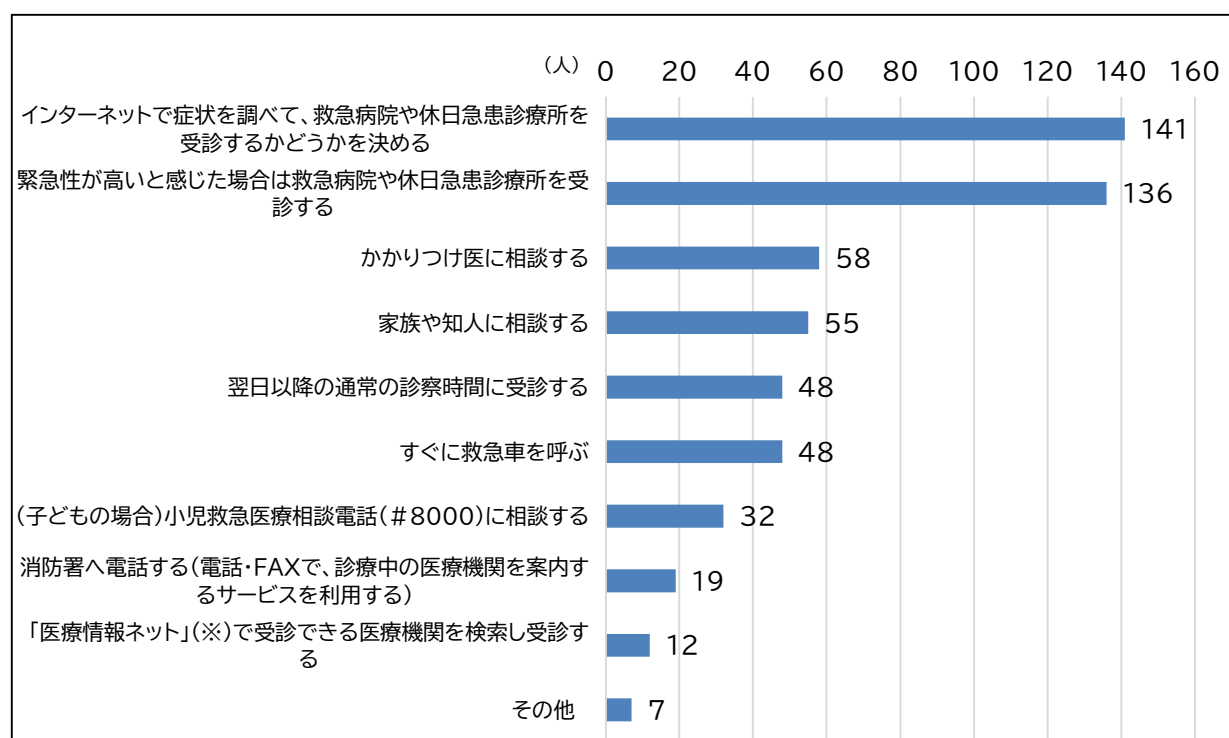


問1 あなたや家族が夜間や休日に急病やケガをしたとき、どのように対応していますか（すると思いますか）。 ※「医療情報ネット」…医療機関の情報をインターネットを通じて提供するホームページ

<https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2300/initialize>

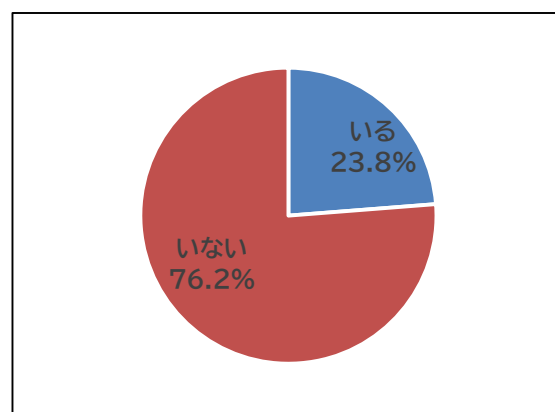
（回答チェックはいくつでも。 n=244）

項目	人数(人)	割合(%)
インターネットで症状を調べて、救急病院や休日急患診療所を受診するかどうかを決める	141	57.8
緊急性が高いと感じた場合は救急病院や休日急患診療所を受診する	136	55.7
かかりつけ医に相談する	58	23.8
家族や知人に相談する	55	22.5
翌日以降の通常の診察時間に受診する	48	19.7
すぐに救急車を呼ぶ	48	19.7
(子どもの場合)小児救急医療相談電話(#8000)に相談する	32	13.1
消防署へ電話する(電話・FAXで、診療中の医療機関を案内するサービスを利用する)	19	7.8
「医療情報ネット」(※)で受診できる医療機関を検索し受診する	12	4.9
その他	7	2.9



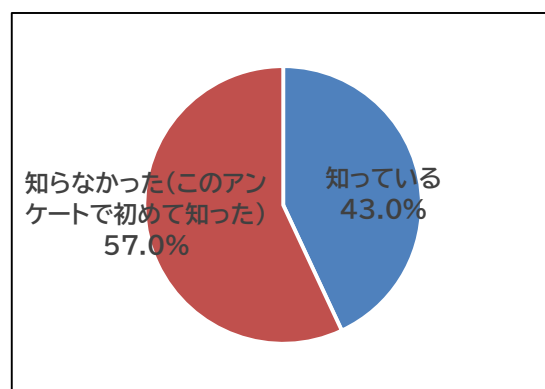
問2 現在、同居家族の中に中学生以下の方はいますか。
(n=244)

項目	人数(人)	割合(%)
いる	58	23.8
いない	186	76.2
合計	244	100.0



問3 子ども(中学生以下の方)が夜間や休日に、ケガをしたり、急に体調を崩したりして、すぐに医療機関を受診すべきかどうか迷った時に、電話で気軽に専門家(保健師、看護師、小児科医師等)に相談できる「小児救急電話相談(#8000)」があることを知っていますか。
(n=244)

項目	人数(人)	割合(%)
知っている	105	43.0
知らなかった(このアンケートで初めて知った)	139	57.0
合計	244	100.0

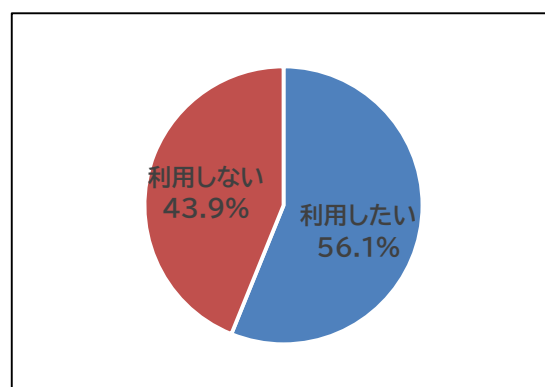


問4 問3で「知らなかった」と回答された方にお尋ねします。

「小児救急電話相談(#8000)」は、休日・夜間の子どものケガや急病で、病院に行った方が良いか判断に迷ったときに、小児科医師や看護師等に電話で相談できるサービスです。

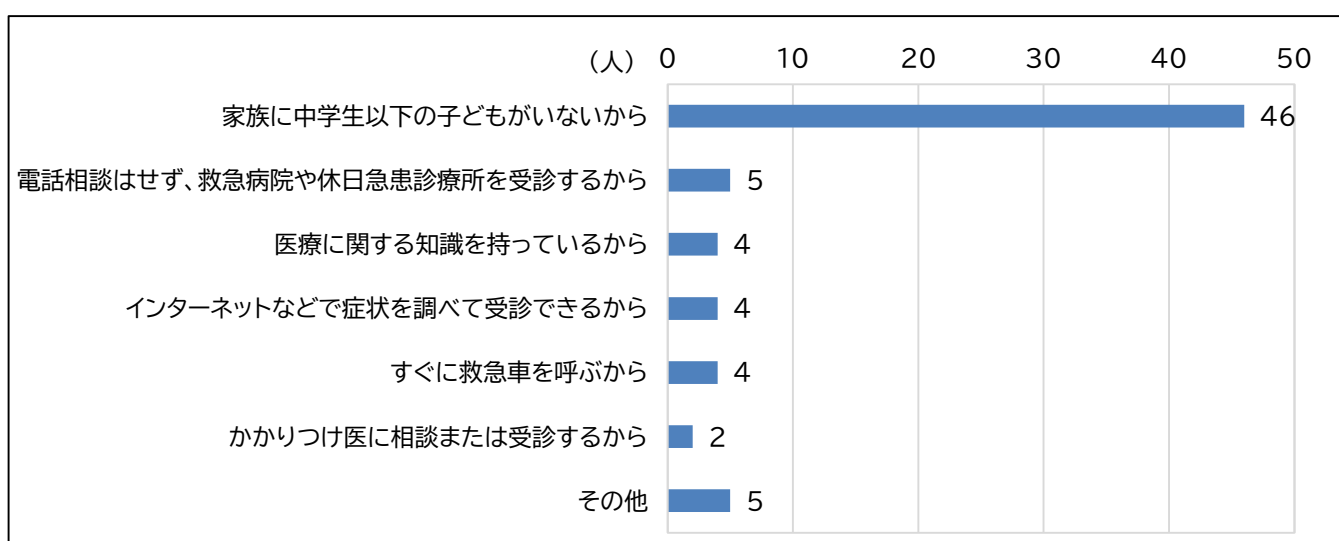
今回、「小児救急電話相談(#8000)」を知っていただき、今後利用したいと思われませんか。
(n=139)

項目	人数(人)	割合(%)
利用したい	78	56.1
利用しない	61	43.9
合計	139	100.0



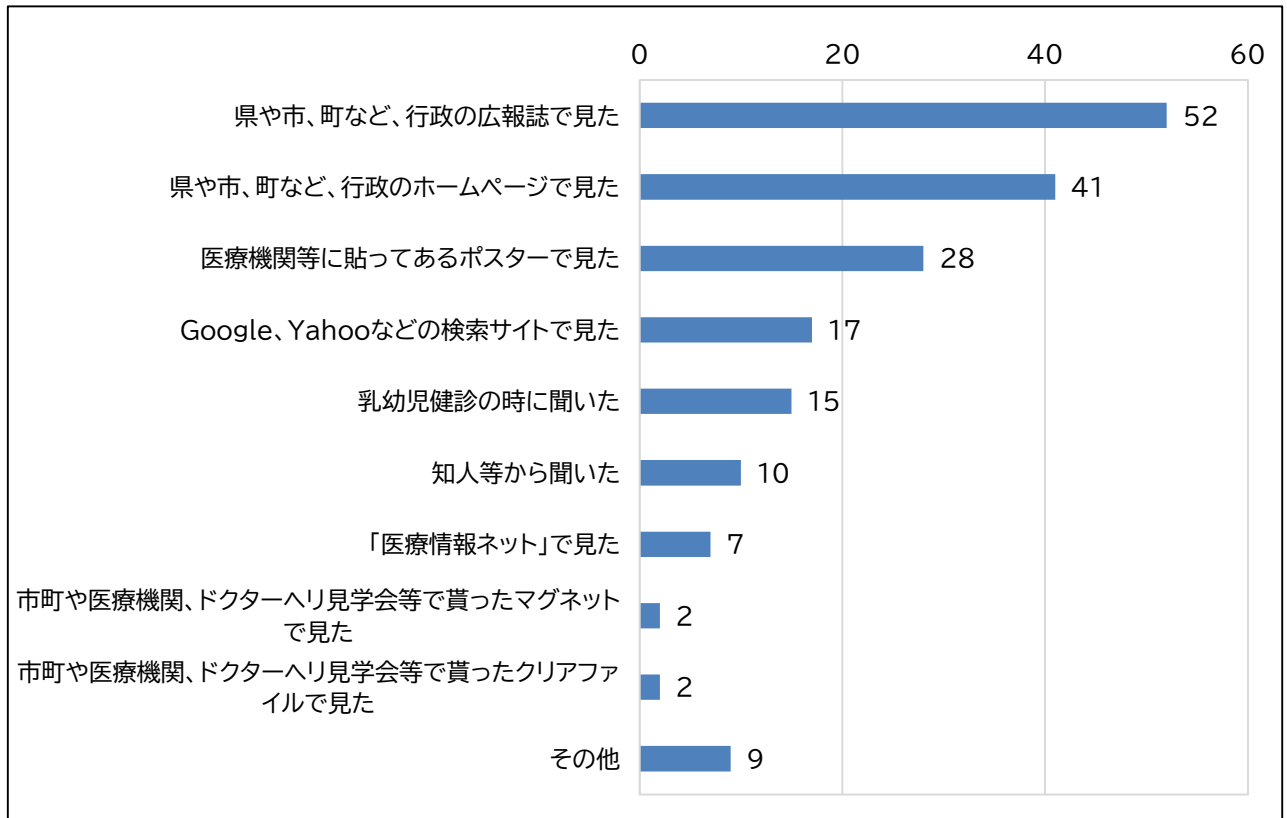
問5 問4で「利用しない」と回答された方にお尋ねします。利用しないと思われる理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも)
(回答チェックはいくつでも。n=61)

項目	人数(人)	割合(%)
家族に中学生以下の子どもがいないから	46	75.4
電話相談はせず、救急病院や休日急患診療所を受診するから	5	8.2
医療に関する知識を持っているから	4	6.6
インターネットなどで症状を調べて受診できるから	4	6.6
すぐに救急車を呼ぶから	4	6.6
かかりつけ医に相談または受診するから	2	3.3
その他	5	8.2



問6 問3で「知っている」と回答された方にお尋ねします。「小児救急電話(#8000)」を何で知りましたか。
(回答チェックはいくつでも n=105)

項目	人数(人)	割合(%)
県や市、町など、行政の広報誌で見た	52	49.5
県や市、町など、行政のホームページで見た	41	39.0
医療機関等に貼ってあるポスターで見た	28	26.7
Google、Yahoo などの検索サイトで見た	17	16.2
乳幼児健診の時に聞いた	15	14.3
知人等から聞いた	10	9.5
「医療情報ネット」で見た	7	6.7
市町や医療機関、ドクターヘリ見学会等で貰ったマグネットで見た	2	1.9
市町や医療機関、ドクターヘリ見学会等で貰ったクリアファイルで見た	2	1.9
その他	9	8.6

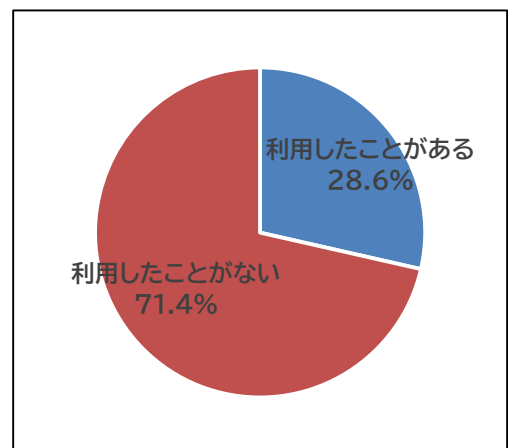


問7 問3で「知っている」と回答された方にお尋ねします。

子どもが、夜間や休日にケガをしたり、急に体調を崩したりした際、「小児救急電話相談(#8000)」を利用したことがありますか。

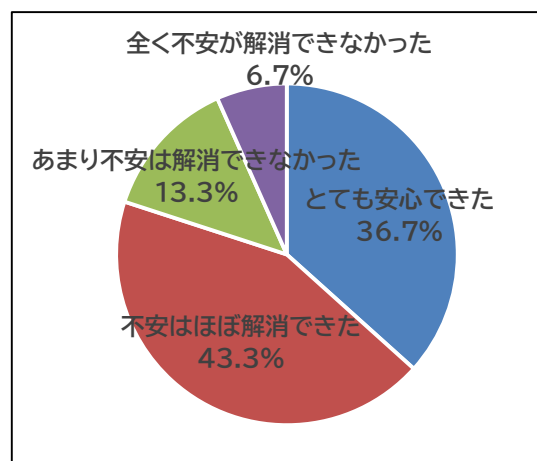
(n=105)

項目	人数(人)	割合(%)
利用したことがある	30	28.6
利用したことがない	75	71.4
合計	105	100.0



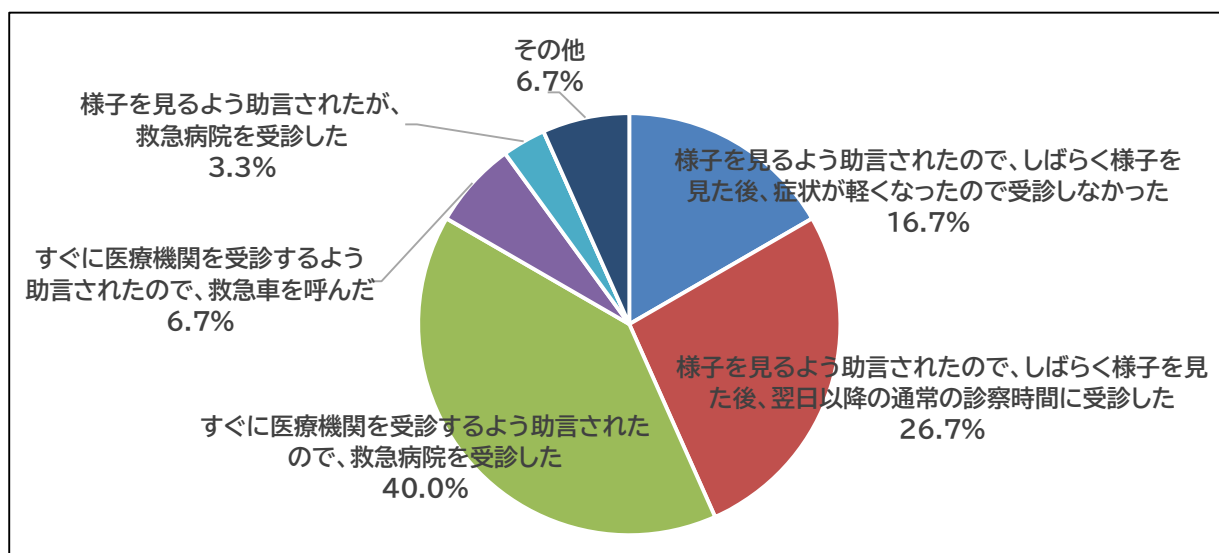
問8 問7で「利用したことがある」と回答された方にお尋ねします。
「小児救急電話相談(#8000)」を利用して不安は解消しましたか。
(n=30)

項目	人数(人)	割合(%)
とても安心できた	11	36.7
不安はほぼ解消できた	13	43.3
あまり不安は解消できなかった	4	13.3
全く不安が解消できなかった	2	6.7
合計	30	100.0



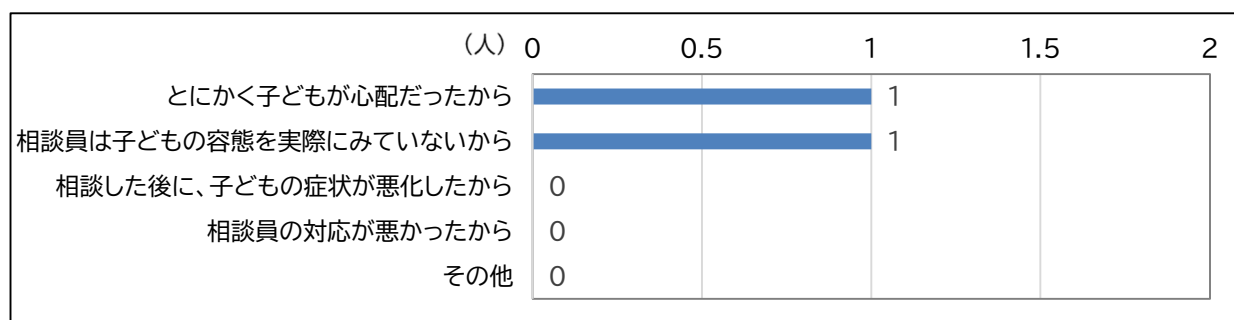
問9 問7で「利用したことがある」と回答された方にお尋ねします。
「小児救急電話相談(#8000)」に相談した後、どうされましたか。複数回利用された方は最後の利用の状況をお答えください。
(回答チェックは1つだけ n=30)

項目	人数(人)	割合(%)
様子を見るよう助言されたので、しばらく様子を見た後、症状が軽くなったので受診しなかった	5	16.7
様子を見るよう助言されたので、しばらく様子を見た後、翌日以降の通常の診察時間に受診した	8	26.7
すぐに医療機関を受診するよう助言されたので、救急病院を受診した	12	40.0
すぐに医療機関を受診するよう助言されたので、救急車を呼んだ	2	6.7
様子を見るよう助言されたが、救急病院を受診した	1	3.3
様子を見るよう助言されたが、救急車を呼んだ	0	0.0
その他	2	6.7
合計	30	100.0



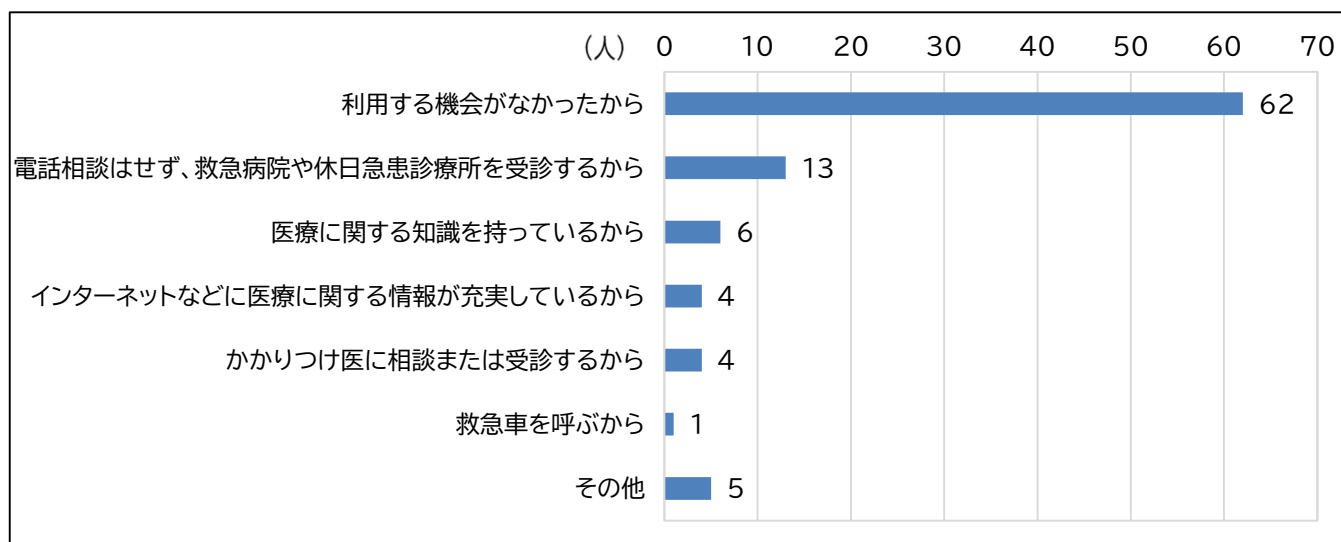
問10 問9で「様子を見るよう助言されたが、救急病院を受診した」または「様子を見るよう助言されたが、救急車を呼んだ」と回答された方にお尋ねします。あなたが、救急病院等を受診した理由を教えてください。
 (回答チェックはいくつでも n=1)

項目	人数(人)	割合(%)
とにかく子どもが心配だったから	1	100.0
相談員は子どもの容態を実際にみていないから	1	100.0
相談した後に、子どもの症状が悪化したから	0	0.0
相談員の対応が悪かったから	0	0.0
その他	0	0.0



問11 問7で「利用したことがない」と回答された方にお尋ねします。
 「小児救急電話相談(#8000)」を利用されなかった理由を教えてください。(回答チェックはいくつでも n=75)

項目	人数(人)	割合(%)
利用する機会がなかったから	62	82.7
電話相談はせず、救急病院や休日急患診療所を受診するから	13	17.3
医療に関する知識を持っているから	6	8.0
インターネットなどに医療に関する情報が充実しているから	4	5.3
かかりつけ医に相談または受診するから	4	5.3
救急車を呼ぶから	1	1.3
その他	5	6.7



問12 小児救急電話相談や小児医療について、ご意見や日頃感じていることを自由に記載してください(抜粋)

< #8000の利用 >

◆子どもの体調不良やケガで自己判断しかねる時、まずは相談できる窓口としてとても心強く思っていますし、今までに 2~3 回利用させてもらっています。おかげで夜間救急に駆け込まずに済みました。電話が繋がらず困ったことも今のところ無いので、これからも予算を割いてぜひ続けていただきたいです。

◆医療制度が整っていることに安心感を持っています。困った時に相談できありがたかったです。夜間や休日にも病院や電話口で従事されている方々に感謝の気持ちを伝えたいです。

◆子どもが小さい頃、夜に急に熱を出したことがあり、小児救急電話相談に助けられた経験があります。すぐに受診すべきか、朝まで様子を見てよいのかを教えてもらえるだけで、親の不安はかなり軽くなります。一方で、電話がつながりにくい時間帯があるのは少し不安に感じました。共働き家庭も多い中、夜間や休日の小児医療体制は本当に心強い存在だと思います。必要な人が安心して相談できるよう、体制の充実と情報の周知がさらに進むとありがたいです。

◆#8000 が携帯電話からつながらない…とおっしゃっておられるお母さんに何人かお出会いした事があります。なぜつながらない？

◆このサービスはとても良いと思います。緊急か様子見で良いのかの専門家のアドバイスは心理面でも親にとって、安心材料でもあります。

我が家はこのサービス対象の子供はいませんが、高齢者もこの様なサービスがあると救急車の乱用防止や介護者にとっても心強いです。

< 広報について >

◆小児科などでは情報提供しているかもしれないが、一般の内科や他の専門医の病院でポスターを貼るなどして、帰省の親元での情報認知を上げるべきと思われた。

◆各教育機関で新年度、夏休み、冬休みにお知らせという形で周知していくのが一番いいと思います。

◆窓口の周知徹底のため病院、保育園、幼稚園でチラシを配布するのがよい

◆いざ、相談する時に何を伝えたらいいかをポスターや広報、HP に載せてあるといいと思う。

< その他 >

◆実際に利用するしないはともかく、そういうサービスがあると心強い。

◆小児救急電話相談(#8000)は保護者の不安軽減に有効ですが、個別対応の限界など課題もあります。

また、小児医療は夜間受診先不足や保護者の孤立が大きな問題であり、治療だけでなく「気軽に相談できる体制」が重要です。

◆夜間や休日に子どもの体調が急に变化した際、小児救急は優先されるべき医療分野だと考えており、受診の無駄を減らすことだけを強調するのではなく、特に乳児については「とりあえず受診してよい」と思えるような、受診の間口を広くする姿勢があってもよいのではないかと感じている。医療現場の負担が大きいことは承知しているが、保護者が受診をためらわず行動できる環境があれば安心につながると思う。

◆子供の夜間の急病対応は、地域の自治体でカバーしてもらえるとありがたいと思う。